

佐々木隆『書誌から見た「オタク」研究』多生堂、2019年10月、viii+425pp.
ISBN:987-4-9909858-6-8

『ポップカルチャーとオタク文化の微妙な関係 増補版』(武蔵野学院大学
佐々木隆研究室、2019年5月)の「第2章 『オタク』とは何か」を
単独で転載し、増補したものである。目次は以下の通り。

プロローグ

序 「オタク」とは何か

1 オタク前史

2 オタクの誕生と発見

3 幼女連続殺人事件の影響

4 オタクの定義

5 「おたく」と「オタク」

6 オタクの気質

7 「オタク文化」とは

8 オタクの変遷

9 オタク研究

10 腐女子研究

11 オタク・腐女子・LGBTの映画・ドラマ

12 気になるTV番組

注

エピローグ

書誌から見た「オタク」研究

佐々木 隆

目次

プロローグ	viii
序 「オタク」とは何か	1
1 オタク前史	1
2 オタクの誕生と発見	7
3 幼女連続殺人事件の影響	13
4 オタクの定義	16
5 「おたく」と「オタク」	53
6 オタクの気質	58
7 「オタク文化」とは何か	63
8 オタクの変遷	69
(1) 世代論	69
(2) オタク 5 世代	71
(3) オタク第 1 世代 1960 年前後生まれ世代	73
(4) オタク第 2 世代 1970 年前後生まれ世代	75
(5) オタク第 3 世代 1980 年前後生まれ世代	82
(6) オタク第 4 世代 1990 年前後生まれ世代	85
(7) オタク第 5 世代 2000 年前後生まれ世代	87
9 オタク研究	91
(1) 『おたくの本』(別冊宝島 104 号)(1989)	92
(2) 中島梓『コミュニケーション不全症候群』(1991)	93
(3) 浅羽通明『天使の天国』(1991)	97
(4) 大澤真幸『電子メディア論』(1995)	102
(5) 岡田斗司夫『オタク学入門』(1996)	103
(6) Mark Schilling. <i>The Encyclopedia of Japanese Pop Culture</i> (1997)	107
(7) 岡田斗司夫「新『オタク文化』講座」(1997)	107
(8) 岡田斗司夫『オタクの迷い道』(1999)	109

(9) 斎藤環『戦闘美少女の精神分析』(2000)	1 1 2
(10) Sharon Kinsella. <i>Adult Manga</i> (2000)	1 1 7
(11) 東浩紀『動物化するポストモダン』(2001)	1 1 8
(12) 森川嘉一郎『趣都の誕生』(2003)	1 2 6
(13) 村瀬ひろみ「オタクというオーディエンス」 (2003)	1 2 9
(14) 大塚英志『「おたく」の精神史—1980年代 論』(2004)	1 3 3
(15) 国際交流基金／森川嘉一郎編『おたく：人 格＝空間＝都市』(2004)	1 3 6
(16) 『ユリイカ』(総特集オタクVSサブカル!) (第37巻第9号)(2005)	1 4 2
(17) 野村総合研究所オタク市場予想チーム『オタ ク市場の研究』(2005)	1 4 3
(18) オタク文化研究会『オタク用語の基礎知識』 (2006)	1 4 6
(19) 牟田武生『ジャパंकール』(2006)	1 4 8
(20) 神澤孝宣「二極化するキャラクター消費」 (2007)	1 4 9
(21) 岡田斗司夫・唐沢俊一『オタク論!』(2007)	1 5 1
(22) 『2008 オタク産業白書』(2007)	1 5 3
(23) Ken Gelder. <i>Subcultures</i> (2007)	1 5 7
(24) ヒロヤス・カイ『オタクの考察』(2008)	1 5 8
(25) 岡田斗司夫『オタクはすでに死んでいる』 (2008)	1 6 2
(26) 早川清他編著『メイド喫茶で会いましょう』 (2008)	1 7 6
(27) 江藤茂博『オタク文化と蔓延する「ニセモノ」 ビジネス』(2008)	1 7 7
(28) 松谷創一郎「＜オタク問題＞の四半世紀」	

(2008)	178
(29) 『國文学』(特集:「萌え」の正体)(2008)	186
(30) 清水信一『ル・オタク フランスおたく物語』(2009)	189
(31) 吉本たいまつ『おたくの起源』(2009)	192
(32) 金田一「乙」彦・編『オタク語事典』(2009)	199
(33) 藤原実『現代オタク用語の基礎知識』(2009)	201
(34) 榎本秋編『オタクの面白いほどわかる本』(2009)	202
(35) 折原由梨「おたくの消費行動の先進性について」(2009)	205
(36) Patrick W. Galbraith. <i>The Otaku Encyclopedia</i> (2009)	207
(37) 浅野智彦「コミュニケーションの失敗/自閉するアイデンティティ」(2009)	208
(38) William M. Tsutsui. <i>Japanese Popular Culture and Globalization</i> (2010)	209
(39) 前島賢『セカイ系とは何か』(2010)	209
(40) 脇坂幸恵『幻根と幻蕾の精神“オタク”女性たちとなりきりメールについて』(2010)	212
(41) 暮沢剛巳『キャラクター文化入門』(2010)	214
(42) 安田誠『オタクのリアル』(2011)	218
(43) Patrick W. Galbraith. <i>Otaku Spaces</i> (2012)	219
(44) Mizuko Ito, Daisuke Okabe, and Izumi Tsuji, editors. <i>Fandom Unbound: Otaku Culture in a Connected World</i> (2012)	222
(45) Patrick William Galbraith. <i>Becoming-otaku: men, girls and movement in Akihabara</i> (2012)	233

(46) 辻泉「アニメーション・マニア、オタクとい う幻想」(2012)	2 3 5
(47) 辻泉「オタクの現在を考える」(2012)	2 3 7
(48) 佐々木隆『オタク文化論』(2012)	2 3 9
(49) 浅野智彦『「若者」とは誰か』(2013)	2 4 1
(50) 寺尾幸紘『オタクの心をつかめ』(2013)	2 4 5
(51) 薄葉彬貢『世界アニメ・マンガ消費行動レ ポート』(2014)	2 4 6
(52) 加藤裕康「若者論とオタク論の系譜」 (2014)	2 4 7
(53) 今井信治『メディア空間における「場所」 と共同性』: オタク文化をめぐる宗教社会 学的研究』(2014)	2 5 0
(54) Patrick W. Galbraith, Thiam Huat Kam, and Björn-Ole Kamm, editors. <i>Debating Otaku in Contemporary Japan</i> (2015)	2 5 6
(55) しめすへん『現代オタク論』(2015)	2 6 0
(56) 原田曜平『新・オタク経済』(2015)	2 6 2
(57) 片瀬一男『若者の戦後史』(2015)	2 7 0
(58) 羽生雄毅『OTAKU エリート』(2016)	2 7 4
(59) 山岡重行『腐女子の心理学』(2016)	2 7 5
(60) 王芳瀟『「オタク論」と系譜学』(2016)	2 7 8
(61) 佐々木隆『ポップカルチャー論』(2016)	2 8 2
(62) Philip Seaton and Takayoshi Yamamura, editors. <i>Japanese Popular Culture and Contents Tourism</i> (2017)	2 8 3
(63) 辻泉「オタクたちの変貌」(2007)	2 8 4
(64) 王芳瀟『オタク的なアイデンティティと 欲望』(2017)	2 8 7
(65) 大泉実成『オタクとは何か?』(2017)	2 9 1

- (66) 株式会社ライブ編『二次元世界に強くなる
現代オタクの基礎知識』(2017) 294
- (67) Howexpert Press and Jessica Roar. *Otaku
101: An Introductory Guide to Learning
About the Otaku Pop Culture, Anime,
Manga, and More!* (2018) 295
- (68) 今井信治『オタク文化と宗教の臨界』(2018) 296
- (69) 宇野常寛『若い読者のためのサブカルチャー
論講義録』(2018) 297
- (70) 平成オタク研究会編『図解 平成オタク 30
年史』(2018) 298
- (71) 佐々木隆『ポップカルチャーとオタク文化
の微妙な関係』(2018) 301
- (72) 松下戦具「広義化した『オタク』の整理—
オタクファッションを考察するために—
(2019) 305
- (73) 小林義寛『「文化 (the cultural)」の文脈化
—あるいは雑種化と土着化—」(2019) 307
- (74) 佐々木隆『ポップカルチャーとオタク文化
の微妙な関係 増補版』(2019) 308
- (75) はちこ『中華オタク用語辞典』(2019) 309
- (76) オタクを研究するとはどういうことか 310
- 10 腐女子研究 312
- (1) 「腐女子」の定義 312
- (2) 荷宮和子『おたく少女の経済学』(1995) 318
- (3) 『ユリイカ』(総特集◎文化系女子カタログ)
(第37巻第12号) (2005) 322
- (4) 山本文子&BL サポータズ『やっぱりボーイ
ズラブが好き』(2005) 326
- (5) 杉浦由美子『オタク女子研究』(2006) 328

(6) 杉浦由美子『腐女子化する世界』(2006)	3 3 1
(7) 『ユリイカ』(総特集◎腐女子マンガ体系) (第 39 巻第 7 号) (2007)	3 3 3
(8) 『ユリイカ』(総特集◎BL スタディーズ) (第 39 巻第 16 号) (2007)	3 3 5
(9) 岡田斗司夫『オタクはすでに死んでいる』 (2008)	3 3 8
(10) 石田美紀『密やかな教育—くよおい・ボーイズラブ>前史』(2008)	3 3 9
(11) 堀あきこ『欲望のコード』(2009)	3 4 2
(12) 杉浦由美子『101 人の腐女子とイケメン王子』 (2009)	3 4 4
(13) かつくら編集部『腐女子語事典』(2013)	3 4 7
(14) 石田喜美+岡部大介『「少女文化」の中の腐女子』(2014)	3 4 9
(15) 『美術手帖』(特集:ボーイズラブ)(第 66 巻 第 1016 号) (2014)	3 5 1
(16) 山岡重行『腐女子の心理学』(2016)	3 5 6
(17) サンキュータツオ・春日太一『ボクたちの BL 論』(2018)	3 5 9
(18) はちこ『中華オタク用語辞典』(2019)	3 6 1
(19) 腐女子小史	3 6 2
11 オタク・腐女子・LGBT の映画・ドラマ	3 6 4
(1) 橋口亮輔監督『夕辺の秘密』(1989)	3 6 4
(2) もりたけし監督『おたくのビデオ』(1991)	3 6 5
(3) 山田大樹監督『七人のオタク』(1992)	3 6 6
(4) 『二十才の微熱』(1993)	3 6 8
(5) 井沢満脚本/細野英延・五木田竜一演出 『同窓会』(1993)	3 6 9
(6) 中島哲也監督『下妻物語』(2004)	3 7 0

(7) 渡辺直美監督『青春 801 あり!』(2004)	3 7 1
(8) 村上正典監督『電車男』(2005)	3 7 2
(9) 兼重淳監督『腐女子彼女。』(2009)	3 7 3
(10) 川村泰祐監督『海月姫』(2014)	3 7 4
(11) ドン・ホール、クリス・ウィリアムズ監督 『ベイマックス』(2014)	3 7 5
(12) 天野千尋監督『どうしても触れたくない』 (2014)	3 7 5
(13) 豊島圭介監督『ヒーローマニア生活』(2016)	3 7 6
(14) 徳尾浩司脚本『おっさんずラブ』(2018)	3 7 7
(15) 英勉監督『3D彼女 リアルガール』 (2018)	3 8 1
(16) 盆子原誠・大嶋慧介・上田明子・野田雄介 演出『腐女子、うっかりゲイに告(コク) る』(2019)	3 8 2
(17) 加藤拓也脚本／狩山俊輔・水野格・茂山佳 則『俺のスカート、どこ行った?』(2019)	3 8 4
12 気になるTV番組	3 8 5
(1) 『カルトQ』(1991-1993)	3 8 5
(2) 『TVチャンピオン』(1992-2006)	3 8 6
(3) 『開運!なんでも鑑定団』(1994-)	3 8 7
(4) 『マツコの知らない世界』(2011-)	3 8 7
注	3 8 8
エピローグ	4 1 7